

## 未来眼やまがた 第3回

## アイデンティティの自覚が大切

国と地方の関係が劇的に変化し、それぞれの地域が個性を發揮し自立していかなければならない時代になってきている。また、人口減少、少子高齢化社会への対応も喫緊の課題となっている。こうした状況下、公益とは何か、庄内の現状と課題、さらに今後の可能性について東北公益文科大学副学長の大島美恵子さんに聞いた。

## 地域に開かれた大学

町田 東北公益文科大学は2001年4月に日本で初めての公益学を学ぶ大学として

大島 美恵子（おおしま・みえこ）

東京都生まれ。慶應義塾大学工学部応用化学科卒、東京大学医学系大学院博士課程修了（生化学専攻、医学博士）、国立医療センター生化学室長、国立国際医療センター研究所代謝疾患研究部長。2001年東北公益文科大学開学と同時に副学長に就任。  
専門領域：生物化学、脂質代謝学、公益学。

スタートしたわけですが、この間さまざまなお苦労があったかと思います。

大島 開学してからは、とにかく必死で、走りながら考えるといったような大学づくりをやってきました。地域に開かれた大学を主眼にして開学しましたので、教員と学生がそれぞれ地域に散らばってまちづくりとかボランティア活動に取り組んできました。そうした意味では庄内の方々から感謝されているようで、地元にも密着した大学として皆さまから受け入れていただけたものと思っています。おかげさまで、今年3月に卒業した第1期生の就職率は東北一だと言われまし、全国でもトップレベルとのことで、そういう意味では非常に喜んでおります。これもひとえに地元経済界をはじめ皆さまのおかげと深く感謝しております。また、今年4月には鶴岡タウンキャンパスに大学院修士課程を開学させていただきました。

## 社会への責任と貢献

町田 今春4月に鶴岡市に開学した大学院はどんな特色を持っていますか。

大島 大学院は、公益の目標として「社会への責任と貢献」をはっきりと掲げ、そのための先端的研究をすすめること、高度な人材を養成することを大きな使命として開学しました。研究の柱は、「公益経営」と「公益の科学・まちづくり」の2つの研究領域で、前者では、公益法人、NPO、行政機関などの非営利法人の経営に関する研究、及び企業における社会的責任経営に関する研究を実践的に進めます。後者では、環境や安全に関する科学、市民と行政の共創によるまちづくり、及び公益に関する政策について研究を進めます。また、社会人がさらに勉学に励みたいという希望に応えられるように多様な単位取得方法を提案しています。今年は入学定員の30名でスタートしましたが、入学者の内訳をみますと、大学からの新卒者よりも、自治体や企業から派遣された方を含め、仕事をしながら公益を勉強したいという社会人が多数を占めております。順調にスタートしましたので、これからはレベルの高い大学院を創っていきたいと思っています。



## 公益とは共通善を追求すること

町田 公益学は学際領域であり、定義が難しいと思いますが、先生が考える公益とはどのようなものでしょうか。

大島 私が考える公益の定義とは、自分だけではなくて、他人にとっても、社会にとっても、人を取り巻く環境にとっても、真に良いこととは何かを考えること。すなわち、共通善（common good）を追求することなのです。学問にはさまざまなものがありますが、社会とか市民とかそういう切り口で切ったところで見えてくるものが公益学と考えています。ですから、経済の分野でも公益があるし、私のような生物化学の分野でも公益があります。真にみんなにとってよいこととは何かを、科学的に研究していく学問にしたいと思っています。

## 価値観の多様性と関係性を再構築

町田 先生のもともとのご専門は、生物化学、脂質代謝学と聞いておりますが、この大学で生命公益学を研究する背景とかきっかけは何ですか。

大島 私は基礎医学研究者としての30年間、研究とは何かを考え続けてきました。診断技術が急速に発展し、治療法が日ごとに進化しつつある現在では、治療を受ける患者側の理解にも社会一般の人々の認識にも限界がありますし、治療を行う医者自身の知識にも限界があります。そうだとすれば、これをよく理解している科学者や研究者が治療の限界や危険性について、わかりやすい言葉で説明するのが社会的責任であるという考えに至りました。実験科学者としての定年を迎えてから、この疑問に答えるために学際領域の研究に踏み出し、「生命公益学」という視点に立って生命科学を考えています。

町田 寝たきり老人の実態などを見聞きしていますと、いわゆる尊厳死について考えさせられますが、先生は尊厳死とか脳死の問題についてはどうお考えですか。

大島 生命倫理という言葉は一般化していますが、倫理という言葉では説明できない複雑な社会問題が数多く派生しています。人はそれぞれ違う考え方を持っています。あの人はこう考える、この人はこう考える、ということであって、これを一つの方向にもって行って、「はい、これは人の死ですよ」と決めるのはおかしいと思っています。脳死の問題にしても、決して答えは一つではないはず。いくつもある選択肢の中から、その時代の社会的文化的背景に応じて最良の答えを選択すべきだと思っています。私は、現在歴史の大きな転換期にあり、多元価値社会が到来していると



町田 睿（まちだ・さとる）

1938年秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、株式会社富士銀行入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、94年株式会社荘内銀行取締役副頭取就任、95年より現職。

いう認識もっています。市民社会が成熟し、人々の考え方が多様化して、家族内でさえ世代間で差が出てきています。ですから、公益という総合的な視点で社会を俯瞰して、価値観の転換、価値観の多様性と関係性を再構築する必要があると思っています。

町田 かなり幅の広い分野だと思いますが、大学では具体的にどのようなテーマを取り上げるのですか。

大島 私自身はテーマとして、生命の終末期を巡る問題とか医療の問題などを取り上げたいと思っています。それから、この大学は文系ですから、やさしいサイエンスという視点で生活にかかわる科学技術といったところも生命公益学の対象領域ではないかと考えております。

町田 先生のプロフィールを拝見しますと、さまざまな審議会等の委員もされていますが、その中で、会長を務めている日本公益学会とはどのような学会ですか。

大島 日本公益学会は2000年5月、公益について総合的に研究することを目的に設立された学会で、人文・社会科学、自然科学の分野を問わず、広く日本および世界に公益の理解と普及を図るべく、「公益理念」の研究および「公益活動」の実践に努めて参りました。今年8月20日・21日に町田市にある東京家政学院大学多摩キャンパスで「経営と公益」を共通テーマに研究発表会を開催します。

## 企業そのものが公益

町田 私は、企業は本来公益的であると思っています。





まちづくり活動「さかた街なかキャンパス」にて  
(写真提供：東北公益文科大学)

事業が公益的でないと、存続自体が長期的に担保されないからです。企業経営を考えると、株主資本主義と言われるような、大いに儲けて株主に還元することが唯一最大の目標であるとするのは正しくないのではないかと考えております。地域も立派な利害関係人ですから地域に貢献をする、あるいは従業員が本当に生き生きと仕事をし、仕事をすることに喜びを感じる、そういう経営をするのも経営者の重要な役割であると思っています。

大島 営利、非営利という言葉でいうとはっきりしすぎてしまいますが、経営とはそういうものだと思います。企業の社会的責任は幾つかありますが、儲けることも責任であり、社会貢献も責任だし、それから、自分の会社の人たちをサポートすることも責任です。まさに、公益的な企業という考え方ですね。

町田 従業員をみても、自分が職業人として成長するというその喜びが基本的にあります。しかし、それだけでは今ひとつ満足しないのですね。自分たちのやっていることが、何か自分以外の他の人たちに評価されている、お役に立っているという実感が仕事のやりがいを感じることだと思います。

大島 これは人間の本質だと思います。何か人のためになりたいというのは、まさに人間が社会的な動物であるということだと思います。

## 女性の能力発揮

町田 山形県の場合、既に人口が減少し、労働力人口も減少しております。これを補うといった政策的な観

点からも女性の能力発揮が重要になると思います。山形県を見た場合、女性の就業率は高いが、管理職のような企業の中核的な仕事についている女性はまだまだ少ないのが現状です。その意味でも、先生のように女性の目標とされる人が山形県にいられたことは意義があります。

大島 働く意欲があり、能力もある女性はたくさんいます。こうした人々を活用しないとこの人口減少社会は乗り切れないと思います。女性の労働力率を見ますとM字型カーブと言いまして、働き盛りの世代が出産育児の時期と重なって減少します。これを解消するためには企業の理解も必要です。

## 再教育のシステムが重要

町田 女性は出産育児という大きな役回りを担われるわけですから、そこで消費される時期というのは社会にとってむしろ大事な時期だという認識を持っています。当行では、子育て期間中は、勤務地を限定できるコースへの転換も可能にしています。せっかく、キャリアパスを踏んできたのに、出産して退職ではもったいないです。企業もロングランで見るという発想に変えないといけなと思います。従業員が継続して働き、長期的なキャリアを形成していくためにも、仕事と生活の調和ができる環境を整え、それぞれのライフサイクルに見合った働き方ができるようにすべきだと考えています。

大島 女性のキャリア継続を考えた場合、再教育のシステムも重要です。私が日本女性技術者フォーラムの代表を務めていたとき、政府に提言するためにデータを取りました。その時のアンケートで回答者の多くが問題にしたのは、仕事を中断して、子どもを産んで、子育てして、職場に戻ったときの再教育、これやってくれる会社が非常に少ないことでした。1年も家庭にいれば世の中からどうしても遅れてしまいます。まさに浦島太郎状態になってしまいます。皆さん焦るわけですが、誰も教えてくれないし、自分でやらなければならない。これを企業にはぜひやって欲しい。これは大事なことで企業が一番に取り組んでいかなければならないことだと思っています。御行は、先ごろ、ポジティブ・アクション（女性労働者の能力を生かす取り組み）を推進している企業を顕彰する「均等推進企業表彰」の厚生労働大臣優秀賞も受賞していますし、女性の活用に関してはかなり先進的な企業だと思って

います。女性として、今後こうした企業が増えていくことを望みます。

町田 どうもありがとうございます。おかげさまで、賞をいただくことはできましたが、これは励みであり、取り組まなければならないことはたくさんあると自覚しています。

大島 それから、ロールモデルといいますが、こういう人になりたいという理想の人が近くにいないと刺激されないのです。ですから、次代を担う後輩のためにも、先輩の女性には頑張ってもらいたいと思います。

### もっと自信を持とう

町田 先生は、山形県総合政策審議会委員で、庄内地域部会の部会長として庄内地域グランドデザインの策定にも参画されておりますが、庄内の現状や課題、今後の可能性についてどう見られておりますか。

大島 庄内はキャパシティーが高いと感じております。まず文化度が高い。自然は豊かだし、食べ物もおいしい。足りないのは人間の数ではないでしょうか。若者がもっと定着していくようにいろいろな仕組みや仕掛けをつくってあげれば、将来伸びると思います。山形県全体で見ても今後向上する可能性が最も高いと思っております。東京にないものがたくさんあると感じております。でも意外と自信がないのですね。東京人が来て何か言うと「ああ、そうか」と思ってくださいなのですが、どういう訳か、東京がいいと思っている。これは大切なことなのですが、自己のアイデンティティーが意外に自覚できていない。これは少し残念と言うか、もっと自信を持っていたきたいと思います。

町田 住んでいる地域の住民は、自分たちがどんなものを持っているのか、あるいは持っていないのか、何が勝っているのか、何が劣っているのか、もう少し自己分析が必要なのだと思います。そういう意味でも、地域外の人々との交流といいますが、交流人口を増やすことは価値があるのではないのでしょうか。

大島 グランドデザインの中でも、単に観光に来てもらうだけでなく、首都圏などからのUIターンとかSターン、兼居の取り組み促進によりここに住み着く人を増やそうとしております。こうした取り組みにより、好きになって住んでくれる人が出てくると、若者たちも今は東京を向いていますが、変わってくるのではないのでしょうか。そうなってあげれば良いと

思っております。ただ、交流を支えるのは交通ネットワークですが、空路以外は立ち遅れているのが現状です。羽田空港から庄内空港までのアクセスだけは1時間と大変便利ですが、高速道路は全国へのネットワーク接続が不十分ですし、新幹線については整備されていない状況にあります。整備が進むと地域のキャパシティーが高いだけに大きく伸びる可能性が高いと思います。

### 地域課題解決の中核に

町田 今後は地域経営がこれまで以上に大事になってきます。三位一体改革とか市町村合併など国と地方の関係が劇的に変化しております。特に、地方財政は国家財政以上に大変になってきておりますし、人口減少、少子高齢化への対応も喫緊の課題です。まさに、それぞれの地域が個性を発揮して自立していかなければならない時代になってきております。これは行政のみならずわれわれ住民も真剣に考えていかなければならない大きなテーマだと思います。

大島 非常に難しいテーマですが、その中核として大学がかかわっていくようになりたいと思っております。

町田 地方の自立とか個性ある地域づくりに大学が果たす役割は大きいと思います。そういう意味で東北公益文科大学がこの地にできたというのは、まさに時代環境に合っているし、ぜひ地域課題解決の成功モデルをつくっていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。



東北公益文科大学大学院（鶴岡市）外観  
（写真提供：東北公益文科大学）